

## ☆☆図書室だより☆☆ ☆第18号☆

## ☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



2014年 8月(後期)～2014年12月(前期) 新規登録の書籍をご案内します

書名(ご寄贈書)

著者名など

クリスマスのまえのばん	The Night Before Christmas	Clement C. Moore 著 William W Denslow 絵 渡辺茂男 訳	福音館書店 [黒 726.6 Mo ]
-------------	----------------------------	---	---------------------

★ 私どもが知っているサンタクロースは、ふとついてニコニコ顔のおじいさん。赤と白の服を着て、子供たちにプレゼントを配ってくれるのでしたね。しかし、このイメージは、1931年以後流されたコカコーラのCMが作りだしたもの。1822年、NYの神学者C・ムーアによって書かれた古典的なこの童話のサンタさんは、黒い服を着た小人さんなのです。(m.t.)

知の福祉力	市川一宏 著	人間と歴史社 [黒 369.04 I ]	
書名(購入書)	著者名など	出版社	分類シール
サンタクロースつているん でしようか	子どもの質問に こたえて	Francis P.Church 著 東逸子 絵 中村妙子 訳	偕成社 [黒 386 Ch ]
わたしはなぜファンタジーに向かうのか もっと教会を行きやすくする本	斎藤惇夫 著 八木谷涼子 著 絵	教文館 [黒 910.268 Sa ] キリスト新聞社 [茶 195 Ya ]	

## ご紹介…

堀川 樹 伝道師より

## 『ハートフル・クリスマス・ストーリー 小さな10の奇跡』

ガイドポスト編 ホーバード・豊子 訳

いのちのことば社

この本に収められている10のショートストーリーはアメリカの月刊誌「ガイドポスト」で紹介されたものである。しかもどれもノンフィクションで、不思議なことが不思議な形で起こっている。残念ながら日本でのエピソードは掲載されていないが、これらのエピソードを通してイエス様が立体的に見えてくる。そして読み終わった後には心温まるものが残る。

私たちは奇跡が信じられない、本当にこんなことあったの? と思うことがある。しかしこの本を読むときにクリスマスの出来事は私たちのただ中に起った奇跡であると導かれる。あの寒い寒い馬小屋に生まれてくださった私たちの救い主は、私たちの心を温めてくださる存在として今も共にいて下さるのである。このことこそ奇跡である。そのことに気づかせてくれる一冊である。

## 『さやかに星はきらめき クリスマス・エッセイ集』

遠藤周作 椎名麟三 他著 日本基督教団出版局 分類: 黒 914.6 E

クリスマスツリーに飾られた星々のようなメッセージ達が一冊に綴られています。日本という国のクリスマスがなんであったかがよくわかります。クリスマスが好きでサンタが好きなすべての日本人に全ての世代の皆様にお勧めしたい珠玉の一冊です。(M.I.)

## 鑑賞して…



### 『サンタクロースっているんでしょうか？ 子どもの質問にこたえて』

Francis P.Church (フランシス ピー チャーチ) 著 東 逸子 絵 中村妙子 訳 偕成社

「サンタクロースって、ほんとうに、いるんでしょうか？」 この8歳の少女の質問に、ある新聞社が、愛情をこめて、味わい深い返事を出しました。アメリカで実際にあった話で、今でも世界中の人びとに愛読されているとのことです。

それは1897年9月、ニューヨーク・サン新聞の「社説」でした。こんなに大切な質問をするほど、信頼してくださりありがとうございます。と始まり、この世でたしかなことは、大人にも子どもにも見えないものだと続きます。そして、人への思いやりとまごころがあるように、サンタクロースもたしかにいると断言しています。

少女の質問に子どもだましの答えでなく、人間として対等に考え、扱う態度に、日本の新聞社に同様の質問が届いたら、どう対応するかと思いました。個々の人格を重んじ対応したアメリカの新聞社に、賛同と敬意をこめて応援の拍手をします。（S.O）

### 『クリスマスの思い出 A Christmas Memory』



分類：黒 933.7 Ca

Truman Capote (トルーマン カポーティ) 著 山本容子 銅版画 村上春樹 訳 文藝春秋

この本は、カポーティーが失われた少年時代の純粋無垢な精神へのノスタルジア（郷愁）を叙述したものであると思われる。人間と言うものは、ありし日の己を愛する為に、自らの失われた過去の思い出を美しく飾るものである。この物語は、ある種の美しさを感じさせ、その事が、この本が広く読まれてきた理由であると思う。

その美しさは、スックの言葉に凝縮されている。すなわち、自然のありのままの姿が神の似姿であるという事である。

しかし人間は、長ずるに従って己の卑しいはかりごとを思いめぐらす様になり、善悪の知識の実を食べた結果、自己自身にとっての独りよがりな善と悪との価値判断をする様になる。しかし、その様な考えでは苦しくなるのは必然である。罪の結果は、死であり苦しみであり絶望であり、神との絶対的なる断絶だからである。

だからこそ人間は、かつて無垢であったはずの少年・少女時代の精神に思いを巡らせるのである。その精神は、エデンの園と相通ずものがあるのかも知れない。（H.N）

… 先生の著書より …



### 『希望の旅 大宮溥・チエ子説教集』

分類：緑 194 Oh

教文館

聖夜讃美礼拝に教会に向かう時、気持ち滅入る師走でもその夜になって漸く、イエス様がお生まれになる、私も羊飼いたちに混じって…と思い慌てるのです。

「…前途に不安を抱きつつ生きているそのまさにただ中に、イエス・キリストが旅の同伴者として来てくださいました。(p.33)」「…私どもは罪から解放され、生まれ変わった人間として、確信を持って生きることができる…(p.56)」と、イエス様が共に歩んでくださるから希望を持って生きていけるということを、一年にわたって（毎日がクリスマスのように）絶えず励ましてくれる説教集です。（Ri）